



# 七里っ子

【学校教育目標】

確かな学力 豊かな心  
健康な体 郷土愛

道志小学校 学校だより 令和2年 6月8日 No.5

文責：校長 雨宮基博

## 心の健康を守るために道志小をワンチームに!

6月4日(木)の3・4校時に、「心の健康を守る全校集会」を行いました。新型コロナウイルス感染症の心配が続く中、人々での安心な生活が困難な状況下で、子どもたちの心の健康にとって、みんなが集まる学校、そして、学級がとても重要な位置を占めてきます。全校集会として、子どもたち、教職員一人一人がみんなで力を出し合い、学級、さらに学校全体を子どもたちの心の安心・安全な基地(ワンチーム)とすることをねらいました。

そこで、私が最も尊敬し、心の健康支援のエキスパートである小谷英文先生(国際基督教大学名誉教授・博士(心理学)・PAS心理教育研究所理事長)を東京からリモートでお願いし、道志小に心の健康を守るための安心体制を作る手助けをしてもらいました。

最初に、校長から全校集会の目的と約束を話し、本時間をみんなで作っていくものであることを伝えました。

次に、小谷先生から「今、怖いもの」として「新型コロナウイルス感染症・パンデミック」だけでなく「心が負けてしまうこと」があること、「心が強くなると、負けることにも強くなる。負けそうになるときにSOSを出すこともできる」「心が窮屈になり、負けてしまうことのないようにできることをみんなで知恵を出し合おう」と全校に呼びかけてくれました。

各学級の話合いは、学級担任の積極的なリーダーシップにより、1年生から6年生までの学級も「心の健康のためにできること」をたくさん考えることができました。さらに、心配なこと・相談したいことも素直に話してくれました。

話し合い後、小谷先生から「みんなが集まることができないので、学校、学級がとっても大事であること、そのために先生を、友だちを好きになること・よくわかるようになること、よくわかるようになるには、友だちはどんな気持ちなんだろうと気持ちをわかるように努めることが大事だよ。」と話してくれました。

さらに、小谷先生は子どもたちの質問に答えながら、「心が負けない」ために大切なことを丁寧に教えてくれました。「不安で心が止まってしまうとき、どうしたらいいの?」(→先ず、声に出すといい。誰かそばにいる人を呼ぶとよい。),「けんかをしないためには?」(→けんかは悪いことではない。友だちとしゃべって友だちのことをわかってしよう。),「どうしたらみんなと笑えるか?」(→笑うことは心を強くするためによい。クラスみんなで笑い話をつくってみるとよい。),「元の生活に戻るのか?」(→今、みんなで知恵を出し合い、工夫して活動することで、今よりももっと、一人一人を尊重し、大切にすると、素敵な世界が得られるようになる。),「ストレスをためないためには?」(→ストレスとうまく付き合うこと、ストレスは悪いものでなく、心を逞しく強くするために必要なことでもあること。) などなど。

今、わたしたちが努力していることは、これからの未来をさらに明るくすることに繋がります。道志小の七里っ子のみんなが、さらにたくましく、元気に育つように、道志小が子どもたちの心の安心・安全基地となるように、全校で協力してがんばっていきたいと思います。

